

電源立地地域温排水対策事業

白糠地点：ウニ移殖試験

(要約)

木村 大・三戸芳典・山内弘子

白糠沿岸では、重要な磯根資源の一つとしてキタムラサキウニを漁獲しているが、過去の調査により、沖合には生殖腺指数（身入り）が低く漁獲対象とならない個体が多く分布している。本試験は、白糠地先沖合に生息する身入りの悪いキタムラサキウニを移殖し、有効利用を図るため実施した。

なお、詳細については、「平成10年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書（東通地点）平成11年3月、青森県」として報告した。

試験結果

移殖放流は平成11年1月18日に実施した。放流したキタムラサキウニの殻径は47～90mm（平均70±11mm）の範囲にあり、その生殖腺指数（生殖腺重量／体重×100：G.I.）は0.4～7.2%の範囲にあり、平均指数は2.6±1.3%であった。

キタムラサキウニの殻径組成は6cm及び8cm台にモードを持つ双峰型であった。また、殻径別に生殖腺指数を見ると、殻径による違いは見られず、そのモードは2%台にあった。

平成8、9年度に実施したウニ移殖放流試験の結果を見ると、平成8年10月の移殖時に4.4%であった生殖腺指数は、平成9年3月には3.6～21.7%の範囲にあり、身入りの悪い8%未満の個体が18%見られるものの、平均では12.3±4.6%と生殖腺指数は増加していた。

平成9年12月移殖時の生殖腺指数は1.7～8.3%（平均3.4±1.5%）の範囲にあったものが、平成10年3月には4.5～29.8%の範囲にあり、8%未満の個体が19%見られるものの、平均では12.7±5.4%と増加していた。

平成8年度の移殖時期は10月であり、9年度は12月であるが、生殖腺指数は平均で各々12.3、12.7%とほぼ同様であり、また、身入りの悪い8%未満の割合は各々18、19%であり、移殖時期が10～12月の期間であれば生殖腺指数は同程度に増加するといえる。